

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3224386号
(U3224386)

(45) 発行日 令和1年12月12日 (2019. 12. 12)

(24) 登録日 令和1年11月20日 (2019. 11. 20)

(51) Int.Cl.

F 1

A 4 5 C 3/04 (2006. 01)

A 4 5 C 7/00 (2006. 01)

A 4 5 C 3/04 A

A 4 5 C 7/00 P

A 4 5 C 7/00 G

評価書の請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号	実願2019-3753 (U2019-3753)	(73) 実用新案権者	513206407
(22) 出願日	令和1年10月3日 (2019. 10. 3)		
(特許庁注：以下のものは登録商標)			
1. マジックテープ		(74) 代理人	110001793
			特許業務法人パテントボックス
		(72) 考案者	田郷岡 聡
			東京都中央区日本橋小網町7-2 ペンテ
			るビル住居棟601 株式会社ステレオ・
			スキップ内

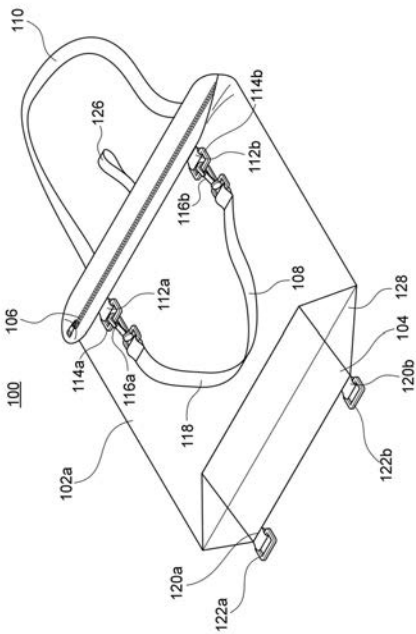
(54) 【考案の名称】 手提げバッグ

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 機能性とデザイン性とを両立する手提げバッグを提供する。

【解決手段】 少なくとも胴部と底部104とを有し、上端の開口部106を介して収納物を出し入れ可能に構成された手提げバッグであって、手提げバッグは、胴部の第1の面側に設けられた第1の着脱手段112a、112b、114a、114bを介して着脱可能に構成された第1の手提げハンドル108と、胴部の第2の面側に固定された第2の手提げハンドル110と、底部の第2の面側に設けられた第2の着脱手段120a、120b、122a、122bと、を有する。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

少なくとも胴部と底部とを有し、上端の開口部を介して収納物を出し入れ可能に構成された手提げバッグであって、

前記手提げバッグは、

前記胴部の第 1 の面側に設けられた第 1 の着脱手段を介して着脱可能に構成された第 1 の手提げハンドルと、

前記胴部の第 2 の面側に固定された第 2 の手提げハンドルと、

前記底部の第 2 の面側に設けられた第 2 の着脱手段と、

を有する手提げバッグ。

10

【請求項 2】

前記第 1 の着脱手段は、

前記開口部の外周縁に設けられた第 1 のバンド部と、

前記バンド部に係合する第 1 のリング部材と、を有し、

前記第 1 の手提げハンドルは、

手提げバンド部と、

前記手提げバンド部の端部に形成された前記リング部材に係合するフック部材と、

を有する、

請求項 1 に記載の手提げバッグ。

【請求項 3】

20

前記第 2 の着脱手段は、

前記底部に固定された第 2 のバンド部と、

前記第 2 のバンド部に係合する第 2 のリング部材と、

を有する、

請求項 1 又は 2 に記載の手提げバッグ。

【請求項 4】

前記胴部の第 1 の面側の内表面には、内ポケットが設けられている、

請求項 1 乃至 3 のいずれか一項に記載の手提げバッグ。

【請求項 5】

前記開口部の中央付近には、前記手提げバッグを折り畳んで収納するための第 3 のバンド部が設けられている、

30

請求項 1 乃至 4 のいずれか一項に記載の手提げバッグ。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、通常の用途にも使用でき、かつ、ピザ、お寿司、お弁当等を水平に保って持ち運ぶことができる手提げバッグに関するものである。

【背景技術】**【0002】**

従来より、コンビニやスーパー等で商品を購入した場合、販売者側からレジ袋が提供されてきた。しかしながら、レジ袋は、買い物をする個人にとっては数枚であっても全体では莫大な数であり、資源の無駄遣いとなる上、焼却時には有害ガスも発生する。

40

【0003】

近年では、レジ袋の有料化等に伴い、エコバッグ等の携帯も普及してきたが、エコバッグは通常のバッグと比較してデザイン性に劣ること等から未だ普及率が高いとは言えない。

【0004】

また、エコバッグは、通常の手提げカバンと同様に縦持ちでの使用を想定して作られていることが多い。そのため、ピザ、お寿司、お弁当等のように、横に大きく、かつ、水平に保って持ち運びたい商品を運搬する場合、エコバッグの中で、商品が縦や斜めになり、

50

中身が崩れてしまうことがあった。

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【0005】

そこで、本考案は、機能性とデザイン性とを両立する手提げバッグを提供することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【0006】

前記目的を達成するために、本考案の手提げバッグは、
少なくとも胴部と底部とを有し、上端の開口部を介して収納物を出し入れ可能に構成された手提げバッグであって、

10

前記手提げバッグは、

前記胴部の第1の面側に設けられた第1の着脱手段を介して着脱可能に構成された第1の手提げハンドルと

前記胴部の第2の面側に固定された第2の手提げハンドルと、

前記底部の第2の面側に設けられた第2の着脱手段と、

を有することを特徴としている。

【考案の効果】

【0007】

本実施形態に係る手提げバッグは、機能性とデザイン性とを両立することができる。

20

【図面の簡単な説明】

【0008】

【図1】本考案の一実施形態に係る手提げバッグを第1の面側からみた概略構成図である。

【図2】本考案の一実施形態に係る手提げバッグを第2の面側からみた概略構成図である。

【図3】本考案の一実施形態に係る手提げバッグの内側を説明するための概略構成図である。

【図4】本考案の一実施形態に係る手提げバッグの使用法例を説明するための概略構成図である。

30

【考案を実施するための形態】

【0009】

以下、本考案に係る一実施形態について図面を参照して説明する。ただし、以下の実施形態に記載されている構成要素は例示であり、本考案の技術範囲をそれらのみに限定する趣旨のものではない。

【0010】

(実施例1の手提げバッグの構成例)

図1に、本考案の一実施形態に係る手提げバッグを第1の面側からみた概略構成図を示す。また、図2に、本考案の一実施形態に係る手提げバッグを第2の面側からみた概略構成図を示す。

40

【0011】

本考案に係る実施例1の手提げバッグ100は、胴部102と底部104を有するバッグであり、上方に、購入した商品等を出し入れするための開口部106を有する。

【0012】

開口部106は、例えば、ファスナー、マジックテープ、ボタン又はホック等の公知の開閉自在な係止器具を有していても良い。係止器具を有することにより、食品等を収納した後、係止器具により係止することで、食品が手提げバッグ100から出てくることがなく、安心して運搬することができる。

【0013】

開口部106の外周縁には、手提げ用の一对の逆U字状の手提げハンドルとして、胴部

50

102の第1の面102a側に第1の手提げハンドル108と、胴部102の第2の面102b側に第2の手提げハンドル110と、が設けられている。

【0014】

第1の手提げハンドル108は、開口部106の外周縁に対して第1の着脱手段により着脱可能に設けられている。第1の着脱手段は、図1及び図2に示す例では、例えば、開口部106の外周縁に設けられた第1のバンド部112a、112bと、該バンド部112a、112bに各々係合する第1のリング部材114a、114bと、を有して構成されている。そして、第1の手提げハンドル108は、端部にこのリング部材114a、114bに各々係合するフック部材116a、116bが形成された手提げバンド部118を有して構成されている。

10

【0015】

第1のバンド部112a、112bは、開口部106の外周縁に対して横幅方向の端部側に設けることが、後述する方法でピザ、お寿司、お弁当等を運搬する場合に、収納物をより水平に保つことができるため好ましい。

【0016】

一方、第2の手提げハンドル110は、その端部110a、110bが、開口部106の外周縁に対して固定されている。固定方法としては、特に限定されないが、例えば、第2の手提げハンドル110を、開口部106の外周縁に対して縫着固定する方法などが挙げられる。

【0017】

20

本考案に係る手提げバッグ100の底部104の外周縁の第2の面102b側には、第2の着脱手段が設けられている。第2の着脱手段は、図1及び図2に示す例では、第2の手提げハンドル110の端部110a、110bの位置に対応して、底部104に固定された第2のバンド部120a、120bと、この第2のバンド部120a、120bに各々係合する第2のリング部材122a、122bとを有して構成されている。

【0018】

図3に、本考案の一実施形態に係る手提げバッグの内側を説明するための概略構成図を示す。本考案に係る手提げバッグ100の第1の面102aの内表面側の中央付近には、例えば内ポケット124が形成されていても良い。内ポケット124は、上方が開口しており、ペットボトルや飲料パック等を収納可能な大きさとなっている。上方開口の構成のため、収納物の取り出しも容易に行えるようになっている。また、後述する方法により本考案に係る手提げバッグ100内にピザ、お寿司、お弁当等を収納した場合であっても、内ポケット124内に飲料を固定して収納できるため、飲料が転がることによって収納物が縦や斜めになることを防ぐことができる。

30

【0019】

また、本考案に係る手提げバッグ100の開口部106の周縁部の例えば中央には、第3のバンド部126が設けられることが好ましい。第3のバンド部126は、例えばゴム等の弾性部材が形成されることが好ましい。これにより、手提げバッグ100を使用しない場合に、手提げバッグ100を折り畳んで第3のバンド部内に収納することができる。

【0020】

40

本考案に係る手提げバッグ100の大きさは、特に限定されないが、後述する方法によりピザ、お寿司、お弁当等を収納することを想定しているため、例えば横35cm乃至45cm程度、高さ45cm乃至55cm程度、底マチ幅10cm乃至20cm程度とし、日常の手提げで使用する様態や、後述する運搬方法で使用する様態の両方が可能となっている。

【0021】

手提げバッグ100の素材は、特に限定されないが、例えば、ポリエステル、ナイロン等の合成樹脂素材や、帆布等を使用することができる。合成樹脂を使用する場合、比較的薄くて軽く、持ち運びがしやすい手提げバッグ100となり得るため、学生やサラリーマンの常備バッグとして最適であると考えられる。一方、帆布を使用する場合、比較的しつ

50

かりとして耐久性の高い手提げバッグ１００となり得るため、主婦の日時の買い物用バッグとして最適であると考えられる。また、手提げバッグ１００の胴部１０２の内面側は、保冷用の断熱材を組み込んだ断熱生地で構成しても良い。なお、例えば胴部１０２の表面等には、模様、色彩を施すことができ、ファッション性に優れたバッグを提供することができる。

【００２２】

一方、第１のリング部材１１４、フック部材１１６、第２のリング部材１２２の素材としては、特に限定されないが、手提げバッグ１００の材料と同様の材料を使用しても良いし、例えばプラスチックなどの材料を使用してもよい。

【００２３】

なお、図１及び図２に示す例では、本考案に係る手提げバッグ１００の底部１０４に底マチ部１２８を設ける構成で説明したが、底部１０４にマチ部を設けず、側面に側マチ部（図示しない）を設ける構成であっても良い。

【００２４】

（実施例１の運搬様態例）

次に、本考案に係る手提げバッグ１００に、ピザ、お寿司、お弁当等を収納する場合の収納方法について、図４を参照して説明する。図４に、本考案の一実施形態に係る手提げバッグの使用法例を説明するための概略構成図を示す。

【００２５】

ピザ、お寿司、お弁当等の横に大きい商品を収納する場合、先ず、フック部材１１６ａ、１１６ｂを、第１のリング状部材１１４から取り外す。そして、フック部材１１６ａ、１１６ｂを、第２のリング部材１２２ａ、１２２ｂに取り付ける。なお、フック部材１１６ｂを第２のリング部材１２２ａに取り付け、フック部材１１６ａを第２のリング部材１２２ｂに取り付けても良い。

【００２６】

この状態で開口部１０６を介して収納物を手提げバッグ１００内に収納する。収納する場合は、収納物を水平置した場合の上面側が第１の面１０２ａ側となるように（即ち、第２の面１０２ｂが収納物の底部に対応するように）、収納物を収納する。

【００２７】

そして、使用者は第１の手提げハンドル１０８と第２の手提げハンドル１１０とを把持して収納物を運搬する。なお、想定する収納物の大きさ等に応じて手提げバッグ１００の大きさを大きくする場合、より安全に収納物を水平に運べるよう、専用の中敷きを別途用意しておいても良い。その場合、通常の用途で手提げバッグ１００を使用する場合、中敷きをコンパクトに手提げバッグ１００内に収納できるよう、中敷きは、１乃至複数回折り畳める構成にしておくことが好ましい。

【００２８】

本考案によると、収納物の底部に第２の面１０２ｂが対応しており、手提げバッグ１００の第２の面１０２ｂ側に配置された第２の手提げハンドル１１０と、第２の面１０２ｂ側に配置された１２０に取り付けられた第１の手提げハンドル１０８とを使用者が把持して運搬することができる。同一の面（第２の面１０２ｂ）に位置する第１の手提げハンドル１０８と第２の手提げハンドル１１０とを使用者が把持することができるため、ピザ、お寿司、お弁当等を運搬する場合であっても、収納物を水平に保って持ち運ぶことができる。

【００２９】

また、第１の手提げハンドル１０８を第１のリング部材１１４、第２のリング部材１２２に着脱可能に構成されているため、通常の荷物を運搬する場合にも使用することができる。

【符号の説明】

【００３０】

１００ 手提げバッグ

10

20

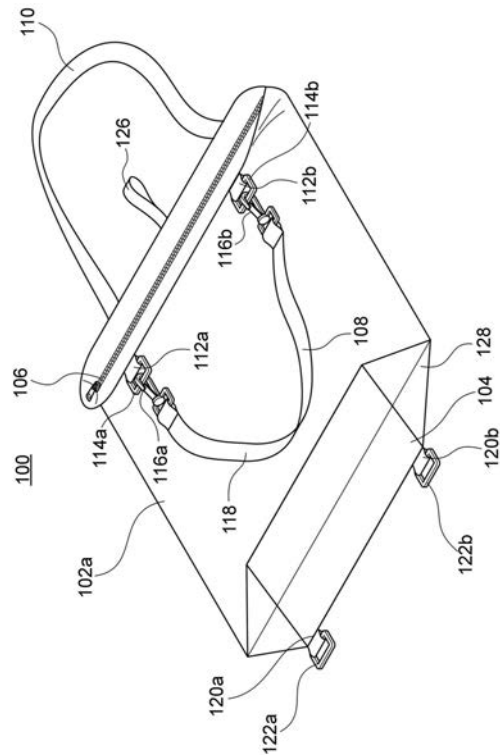
30

40

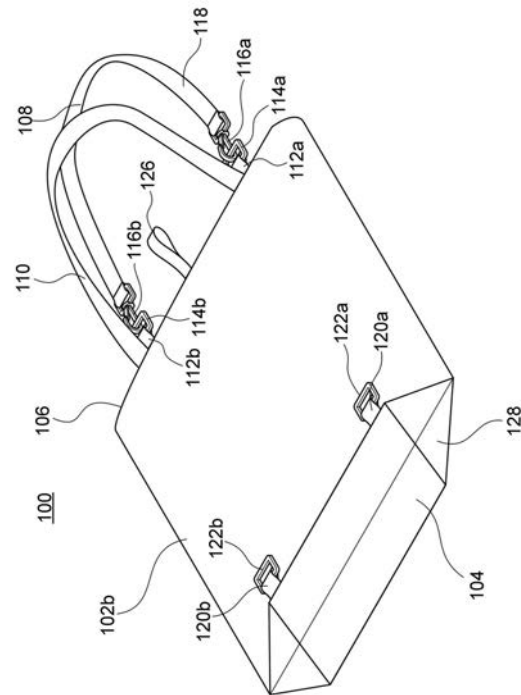
50

102	胴部
104	底部
106	開口部
108	第1の手提げハンドル
110	第2の手提げハンドル
112	第1のバンド部
114	第1のリング部材
116	フック部材
118	手提げバンド部
120	第2のバンド部
122	第2のリング部材
124	内ポケット
126	第3のバンド部
128	底マチ部

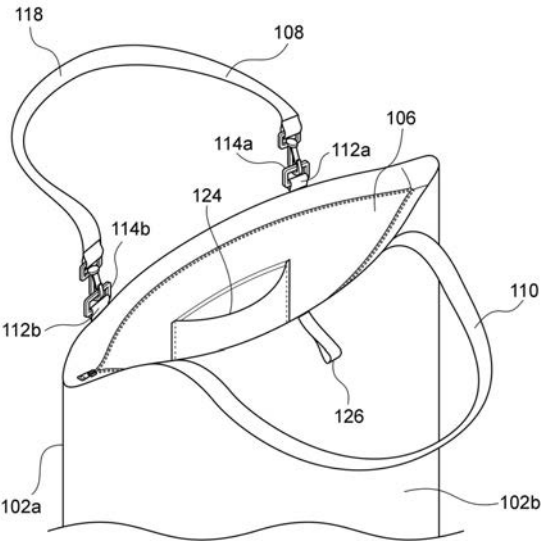
【図1】



【図2】



【図 3】



【図 4】

